

第1回 大阪科学賞 昭和58年度(1983年度)

受賞者氏名： 岸本 忠三(きしもと ただみつ)

所属(受賞時)： 大阪大学 細胞工学センター 教授

業績： Bリンパ球の分化とその制御に関する研究

Bリンパ球に抗体産生を誘導する分子インターロイキン6(IL-6)を発見すると共に、その受容体(IL-6レセプター, gp130)構造を解明し、ひきつづき、信号を細胞内へ伝達する分子(NF-IL6, STAT3)、更に信号を負の方向へ調節する分子(SOCS)の存在も発見し、サイトカインシグナル伝達の大要を解明した。

IL-6の過剰発現がリウマチ、クローン病、キャッスルマン病、ミエローマ等の免疫病や、血液腫瘍の発症に関わることを明らかにし、抗IL-6受容体抗体を用いてこれらの病気を治療する方法を開発した。